



若手建築家が新ビジネス提案

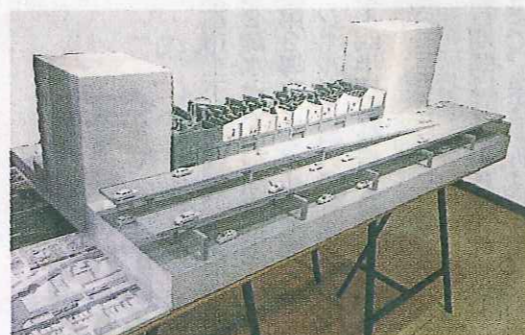
東京都港区の芝浦周辺は、2020年東京オリンピック・パラリンピックのベイ・ゾーン正面に位置し、JR山手線新駅の開設、リニア中央新幹線の東京都ターミナル駅計画、アジアヘッドクォーター特区計画など、今後、大規模開発が予定されている。倉庫街の歴史もあり、リノベーションの可能性を持つ施設が各所に点在している。イーソーコ総合研究所、ジョイントテックスカンパニー、リソーコの3社が幹事企業として運営する倉庫リノベーション研究会の展示会とフォーラム「若手建築家5名による倉庫リノベーションの提案」が16日、同区の建築会館で開かれ、倉庫を活用した新たなビジネスが提案された。



芝浦地区研究会



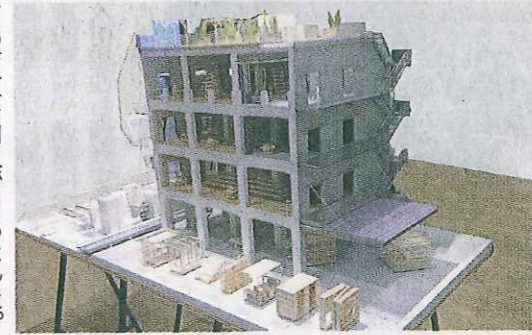
畝森氏「Shibaura Library」



久保氏「Open-Traffic SOHKO」



中村氏「LOFT FIELD shibaura」



松井氏「パブリック・ポータビリティ」



中川氏「まちを知りたいなら、まずは外に出よう」

既存倉庫をリノベーション

プレゼンテーションを行った建築家は、中村真広(ツクルバ代表取締役CCO)、畝森泰行(畝森泰行建築設計事務所)、松井亮(松井亮建築都市設計事務所)、久保秀朗(前橋工科大学非常勤講師)、中川エリカ(中川エリカ建築設計事務所)の5氏。このうち中村氏の「LOFT FIELD shibaura」は、同地区に呼び込む新産業として、スマートフォンやタブレットで遠隔操作できる無人飛行ロボット「ドローン」に注目。倉庫の高い天井高を活用し、上部にメッシュを敷き、ドローンを自由に飛ばすことができる空間を設ける。倉庫の機能はそのままに収益性を上げることができ、不動産として

の価値を向上できるとした。畝森氏の「Shibaura Library」は図書館への利用を提案した。個人所有の本や写真、企業のデータなどを公開するスペースを設け、「情報を共有し、コミュニケーションを生む」機能の活用を狙う。同地区は高層共同住宅が多く、将来的に改修ニーズが高まることを予想される。その時期を見据え、松井氏の「パブリック・ポータビリティ」は住民自らがリノベーションを行うための工房としての利用を目指す。マーケットや学校など公共の用途も導入し、ものづくりの拠点としての役割を持たせる。

地域密着のユニークな「点」をつくる

昨年4月に発足した同研究会メンバーがフォーラムを企画した建築ジャーナリストの中崎隆司氏は「芝浦の特色である倉庫を活用しながら、大規模開発ではなく、地域に密着した提案ができるのではないかと研究の趣旨を語る。同じメンバーで、会場構成を担当した建築家の西沢大良氏は「街にユニークな点をたくさん作るということが、街の共通の目標になる。この街にしかできない点をつくる」といって、それぞれが担う仕事の中で考えていってほしい」と今後の展開に期待を寄せた。

今ごろ桜前線は津軽海峡を越えたのだろうか。桜は日本人が好きな花で、日本列島を南から北へ桜を追って旅をしたと夢を描く人は多い。桜の花言葉は「精神の美」「優美な女性」だが、種類で多少の違いがある。ソメイヨシノは「純潔」「優れた美人」、しだれ桜は「優美」「まかし」、八重桜は「豊かな教養」「善良な教育」「しとやか」、山桜は「あなたに微笑む」「高尚」「淡泊」「美麗」などがあり、いずれも日本人の納得する花言葉である。

で花言葉が作られたという。花言葉には決まりはなく、日本では季節に合わせて花の形や色などの特徴をうまくとらえた花言葉が多い。さて、花言葉が「安全」という花がある。ナナカマドは北海道でよく見られる高さ5〜10メートルの樹木で、初夏には白い小さな五弁

花が群れて咲く。秋には枝先に小さな赤い実をたくさんつけ、初冬には白い雪に映えて美しい。「七回かまごに入れても燃えにくい」という語源から、火災よけ、落雷よけとして神社にも植えられ、別名「らいでんぼく(雷電木)」とも呼ばれる。スウェーデンでは船を作るとき、神話の由来から航海の安全を願ってナナカマドの木を加えるという。花言葉は、「安全」「慎重」「賢明」「用心」「怠りない心」などである。

仙草は日本各地の山野に分布し、つる性の多年草で長く茎を伸ばす。8〜9月、小さな白い花が多数咲き、実の先端に名前の由来である仙人のような白いひげが生じる。花言葉は「安全」「無事」「あふれるばかりの善意」であるが、葉の汁液は有毒で皮膚につくと水ぶくれができる。馬も食べないことからウマクワズとも呼ばれる。キンギアナムは高山の岩場に生える40センチほどのラン科の多年草で、春にピンクや白色の香りの良い小さな花がたくさん咲く。花言葉は安全、注意、真心を伝えるなどで、自生する高山の岩場は日当たりが良く安全な場所だからという説がある。

千日紅は、千日草、たんご花、だるまそう、せんにちほろすなどとも呼ばれる一年草で、丈は大人の膝ぐらい、花は小さな球形で愛らしく麦わらのような感触である。色はピンク、白、赤紫、薄紅色などがあり、夏から秋にかけて長く咲く。花に見える部分は苞の集合体で、乾燥した

さくらとだんごばな

建設 論評

「安全」「無事」「あふれるばかりの善意」であるが、葉の汁液は有毒で皮膚につくと水ぶくれができる。馬も食べないことからウマクワズとも呼ばれる。キンギアナムは高山の岩場に生える40センチほどのラン科の多年草で、春にピンクや白色の香りの良い小さな花がたくさん咲く。花言葉は安全、注意、真心を伝えるなどで、自生する高山の岩場は日当たりが良く安全な場所だからという説がある。

千日紅は、千日草、たんご花、だるまそう、せんにちほろすなどとも呼ばれる一年草で、丈は大人の膝ぐらい、花は小さな球形で愛らしく麦わらのような感触である。色はピンク、白、赤紫、薄紅色などがあり、夏から秋にかけて長く咲く。花に見える部分は苞の集合体で、乾燥した

でも色があせないでドライフラワーとしても使われる。育てやすく夏の暑さにも強く太陽と風が大好きな花だ。花言葉は、「安全」「変わらぬ愛情」「永遠の恋」「不朽」「不滅」「永遠の命」などがある。スポーツや芸術、学問などでその成果・業績をたたえて顕彰者に花を贈ることがある。花を贈られると嬉しいが、多くの男性は気づかずかしく花を抱いて街を歩けないという。そんなとき、花言葉を添えると男の気位は少し和らぐ。建設現場の花壇やプランターで咲く花に花言葉を添えれば、心は和み労働災害がいくつかわ消えていく。花と花言葉には、不思議な力がある。「たまごまなこ」思い出す桜かな 芭蕉 (傘)